比較的裕福な人々は貧しい人々を助けるべきか？

キャスリーン・ムーア

(1) 20世紀末を迎えるにつれ、富める者と貧しい者との格差はかつてなく広がっています。一部の人々は、どれだけ贅沢な買い物をしようとも、一生で使い切れないほどのお金を持っていますが、他の人々は最も基本的なニーズを満たすことさえできません。世界のすべての大陸で、人々が食べ物の不足で餓死し、避難所の不足で凍死し、予防可能な病気で亡くなっています。この状況は、世界の裕福な人々が貧しい人々を助けるために道義的な義務を負っているかどうかの問題を提起しています。私は比較的裕福な人々は、自らの収入の一定の公平な割合を提供して、世界的な規模で絶対的な貧困を減少させるために協力すべきだと主張します。

(2) 私の主張は、比較的裕福である、つまり、特定の社会の文脈で通常は裕福または富裕と定義されるであろう人々は、自らの収入のわずかながら有益な割合を提供する義務があるというものです。オーストラリアの哲学者であるピーター・シンガーは、その割合を10%と提案しています。そのお金は絶対的な貧困を緩和するために使用されるでしょう。これは、かつての世界銀行総裁であるロバート・マクナマラが「栄養失調、無学、病気、不潔な環境、高い乳児死亡率、人間の品位の合理的な定義以下の低い寿命」と定義した状態です。

(3) 多くの人々は、裕福な人々は自分よりも需要がある人々を助ける必要はない、と主張しています。この主張の最も強力な議論は、カリフォルニア州立大学の生態学者であるギャレット・ハーディンによって表明されています。彼は、人々を助けることの有害な結果を指摘し、裕福な人々が、それ以外では比較的低い寿命を持つ人々の生存率を上げることで、世界の人口を増やし、それによって自然資源の消費が増え、環境問題が発生すると主張しています。ハーディンは言います、飢餓は悪だが、貧しい人々を助けることはより大きな悪を生み出すだろう――飢える人々が増え、それを助けるためのリソースが減る。また、裕福な人々が他の人々よりも相対的に高い収入を得ているからといって、彼らが道義的に責任を負うべきだとは言えない、という主張もあります。

論点の緊急性を伝える

トピックを導入し背景を提出

主題

言い換え

関連用語を定義

文献を引用

通常はこの引用の後に脚注がつく。

筆者による批判の言い換え

要脚注

絶対的貧困

例えば

アンチテーゼ

ここから論文の本体

このパラグラフで筆者の主題に対する異論を説明

① 教育向上による人口管理
② 問題解決に寄与できる人の増加
③ 人的資源の活用

(4) 私は対照的に、人々は絶望的に貧しい者を助ける道義的な義務があると信じています。なぜなら、貧しい人々を助けることが必ずしも人口を増やし、それによって環境の悪化が進むとは限らないからです。まず第一に、金銭的な援助が医療品や食料をもたらし、それによって人口が増えるかもしれませんが、同時に避妊具や人口管理に関する教育をもたらすことができます。したがって、貧しい人々を助けることで実際に人口増加率を減少させ、結果的には環境リソースを保存できるかもしれません。第二に、絶対的な貧困を減少させることは、環境の問題の解決と人口問題の解決に貢献できる人々が増えることも意味します。最後に、純粋に実用的な観点から見ても、人々は薪や肥沃な土壌と同様に重要な経済的な資源であり、人々を病気にして死なせることはその資源を損ない、無駄にすることになります。

ここから筆者の反論
↓
3つの前提を提出

義務論的共有された自明の前提に派生

ここが主題のための第1の論証

(5) 貧しい人々を助ける義務は、ある程度、単に人権の問題です。私たちはペットが適切な扱い、生きるための十分な食べ物、寒さからの避難所、けがや病気の際の医療を受ける権利があると信じています。アメリカの裕福な人々はこれらの基本的なニーズを動物たちに提供するために多額の収入を費やしています。動物がこれらの権利を持っているならば、人間も少なくとも同じ基本的な権利を持っているはずです。人々は動物よりも尊重され、考慮されるべきであり、動物に提供されるものよりも良い環境で生活する機会を与えられるべきです。

第2の論論

(6) しかしながら、裕福な人々が貧しい人々を助ける道義的な義務を持つ主要な理由は、他の人を殺すことが間違っているという道徳的な原則と関係があります。もし他の人を殺すことが間違いであるならば、ある人が死ぬことを許すことも、その人が死ぬ運命であり、君が自分の手でその人の命を救う手段がありながら救わないことも、同様に道徳的に間違っています。裕福な人々が世界の貧しい人々に対する貧困の有害で致命的な影響を減少させるために行動しないことは、基本的な道徳的原則に違反しています。したがって、裕福な人々が貧しい人々を助けることは道義的な責任です。

殺人は誤り
ならば
救える人を
救わないのも
(見殺しも)
誤り。

//人権

(7) 結論として、裕福な人々は、人々がまともな生活の権利を持つ生きている存在であるだけでなく、助けて生きる手段が自分の手の届く範囲にあるにも関わらず、人々を死なせることは間違っているため、自らの富の一定の割合を世界の絶対的な貧困をなくすために提供すべきです。

論文の結論と主題の再提示